

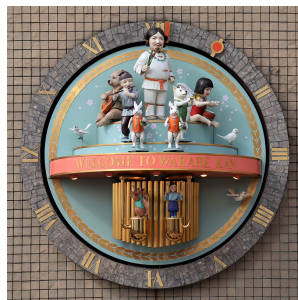
# からくり時計の制作者をたずねて

わらべ館企画員 高橋智美

太鼓を叩く金太郎、クルクル回る一寸法師。わらべ館の中庭にあるからくり時計は、一時間に一度人形たちがにぎやかに時を知らせる。一九九五（平成七）年七月七日の開館以来、わらべ館のシンボルとして親しまれてきた。時計の演出がはじまると、集まった子どもたちはジャンプをしてリズムをとり、大人たちはスマートフォンを構え始める。開館から二七年経った今も人々を魅了してやまないわらべ館のからくり時計は、どんな人たちがつくったのだろうか。館内に眠っていた企画書を手がかりに探ってみた。

なじみの童謡に合わせ一日九回、四分三〇秒のドラマ  
「何回みても心なごませる演出」に注力

わらべ館のからくり時計の歴史を紐解けば、始まりは開館前年の一九九四（平成六）年に遡



わらべ館からくり時計  
(いべんとほーる壁面に設置)

る。服部セイコー（現セイコーホールディングス）の子会社で設備時計やからくり時計を専門にするセイコーシー・エス・ティー（現セイコータイムクリエーション）が開館に間に合うよう半年かけて製作した。セイコーグループが手がけた記念すべき二百台目の大型からくり時計にあたる。文字盤の直径は約二メートル三〇センチ、重量は約一・五トン。午前九時から午後五時まで一日九回からくりが作動する。一回の演出時間は四分三〇秒。毎時五九分になると、前奏として童謡・唱歌のふるさと鳥取のシンボルソング「ここはふるさと」の優しい音色が流れる。続いて、季節感のある唱歌のメロディーとともに、子どもの顔と太陽が描かれた中央のレリーフ部分が反転し、楽器を持った人形たちが登場する。すっきり日常となった風景だが、誰が人形たちをデザインし、テーマ曲を編曲したかとなると、長年勤めている職員の中にも知る者がいない。筆者の中でずっと気になっており、いつか調べてみたいと考えていた。

わらべ館からくり時計曲目一覧

曲名	作曲者
ここはふるさと	中田喜直
春が来た (3月～5月)	岡野貞一
我は海の子 (6月～8月)	不詳
紅葉 (9月～11月)	岡野貞一
スキー (12月～2月)	平井康三郎
大こくさま	田村虎蔵
一寸法師	田村虎蔵
花咲爺	田村虎蔵
金太郎	田村虎蔵
オリジナル曲	小泉まさみ
故郷	岡野貞一



除幕式で華々しくお披露目された  
(平成7年7月7日)

二〇二二（令和四）年一月、仕事の合間を縫って昔の資料が収められている地下の書庫を探していたところ、古い段ボールの中から当時の企画書を発見した。この企画書は、セイコーシー・エス・ティーが一九九四（平成六）年に作成したもので、企画主旨、イメージ図、からくり演出の説明などが一ページにわたって書かれていた。企画の主旨は次のとおりである。

- ・鳥取県の文化のオリジナリティを分かり易く、またエンタテイメント的に表現する。
- ・初めて見る人には期待感を持たせ、かつ何回みても心を和ませる演出にする。
- ・童謡館、おもちゃ館への誘いにつながる、又は来館者へのあたたかい微笑ましいお出迎えを表現する。

（童謡館（仮）企画書より抜粋）

これらの趣旨に沿ってからくり時計に登場するキャラクターたちが選ばれた。「大こくさま」「一寸法師」「花咲爺」「金太郎」には、それぞれの物語を題材にした曲があり、その全てを鳥取県出

#### プロローグ

- ① 設定時刻になるとチューブラベルの音によってプロローグの曲が流れてきます。
- ② 文字機軸にスポットがあてられます。
- ③ プロローグの曲と共に、文字板中央部（太鐘のマーク部分）がユックリと回転し開いて行きます。



#### 演出時間

プロローグ・・・ 30秒  
主 題・・・ 2分  
エピローグ・・・ 30秒

からくり時計企画書

美町出身の田村虎蔵が作曲しているのである。県民にとってなじみ深いキャラクターたちが、わらべ館を訪れた人々に歓迎の心を込めて演奏する。それがからくり時計の筋立てであった。

## 大阪万博の彫刻、ツイギーのマネキンで大ヒット 人形制作は時代の先端を走った彫刻家

時計の人形のデザインについて、企画書には「詩情性を高めるために、高いレベルの人形作家を起用」とあった。ページを繰ると、作家の作品例としてブロンズ像と他施設のからくり時計の写真が載っているが、作家名は書かれていない。時計の製作会社に問い合わせたが、当時の資料は見当たらないと回答があった。企画書の作品例の写真と似たような作風の人形を訪ねてみたが作者はわからなかった。

二〇二二（令和四）年一二月、鳥取県文化政策課に保管されているからくり時計の資料に「大森達郎」という名前があると連絡があった。人形は、時計の製作会社から東京都の彫刻家・大森達郎氏が主宰していた「大森アトリエ」に委託されたようだ。

大森達郎氏（一九三三—二〇一一）は、東京都世田谷区出身の彫刻家である。マネキン人形の原型制作、大阪万博での彫刻制作や、青森県十和田市内の馬の彫刻、金沢市内の再開発のために制作した子どものモニュメント、毎日映画コンクールの特ロフィーのデザイン等、多岐にわたり活躍した。

大森氏は、武蔵野美術学校（現武蔵野美術大学）で彫刻を学び、京都に本社を置くマネキンの製造販売会社「七彩工芸（現七彩）」に職を得た。一九六〇年代後半に来日し、日本にミニスカートブームを巻き起こしたイギリス人女優、歌手、モデルのツイギーが話題をさらった際には、ツイギーをイメージしたマネキンの原型を制作し、大ヒットを飛ばした。大森氏が制作した人形は、全国の百貨店に並んだという。

一九八〇年代後半からは人形作家の女性とともに、東京都中央区「エトワール海渡」、奈良市「ならファミリー」（注）、千葉県「ジャスコ野田店」（注）など各地の商業施設や公共施設に設置されたからくり時計の人形を多く手掛けた。東京都在住のディスプレイデザイナー妹尾大介氏は、武蔵野美術大学空間演出デザイン学科に在籍中、講師をしていた大森氏に師事、卒業後も大森氏と一緒にからくり時計の仕事をする機会があった。「子どもや女性の人形の場合、肌の色が柔らかく血色が良く見えるような調色をしていた。彫刻家なので人形の陰影が引き立つような色を選んでいた」と妹尾氏は話す。



ならファミリーの屋上  
らくだの「ポコラ」

## バンド、アイドルの楽曲と多彩な音楽活動 「からくり時計の音楽は絶対に楽しく」

次は音楽の制作者である。企画書には制作者の名前が書かれていなかったが、ウェブサイト「koperniks.com」<sup>(注3)</sup>に、わらべ館の時計の音楽制作者として、小泉まさみ氏の名前があった。小泉氏は一九四八（昭和二三）年生まれ。多摩美術大学に進みバンド活動を始める。一九七四（昭和四九）年、「ポピュラーソングコンテスト（通称ポプコン）」に自作曲「こんがり



小泉まさみ氏

トーストにミルクティー」で応募し、パイオニア賞を受賞する。二年間のバンド活動を経て作曲家に転向。柏原芳恵、アグネス・チャン、中森明菜ら人気アイドルをはじめ多くの歌手に楽曲を提供する。「ミックカン味ぼん」や雑誌「ESSE(エッセ)」、目薬「マイティアCI」などのコマーション曲、テレビ番組のテーマ曲やベネッセの幼児向け教育雑誌の曲などを制作した。

三〇代後半、時計製作会社の依頼によりからくり時計の音楽制作をはじめた。これまでに、シンガポール、東京、兵庫、福井など、国内外二〇ヶ所以上のからくり時計の音楽を制作した。

小泉氏にとつてわらべ館のからくり時計に使用されている田村虎蔵の唱歌は「幼少の頃に歌ったなつかしい歌だった」と言う。時計の三曲目に流れる「大こくさま」は、因幡の白うさぎ神話を題材にした唱歌だ。「ここにいなばのしろうさぎ かわをむかれてあかはだか」という歌詞の

とおり、短調の悲哀にみちたメロディーであるが、からくり時計では、軽快なリズムと明るい音色で演奏されるため、陽気に聞こえる。その理由について「からくり時計の音楽は絶対に楽しくなければならぬ、悲しさを感じさせないようにつくった」と語る。見ている人が飽きないように、時計の楽曲ごとに伴奏のリズムと調性を変え、特色をだした。

小泉氏は、「機械のコンプレックス」をテーマにからくり時計の音楽を制作してきたという。「時計に出てくる機械の人形は決められた正確すぎる動きに対してコンプレックスを持っていると考えた。時計の音楽はパソコンの音楽制作ソフトでつくっているが、人間の演奏者よりも正確で抑揚がない演奏だと聴かれて、冷たく感じる人がいるのではないか？だから『機械』たちは人に届くあたたかい『オト』を探し求めているはずだ、そんな思いでからくり時計の音楽をつくってきた。単なるからくり音楽にはしなくなかった」と語る。

二〇一八（平成三〇）年、からくり時計の愛好家たちの要望で、小泉氏によるからくり時計の音楽を集めた頒布用のCDが制作された。撤去され現在は見ることでできない時計の曲も入っており、ファンに喜ばれている。

## 二人の制作者が銀河鉄道の世界も演出 夢と希望と郷愁を感じる総合芸術品

大森、小泉両氏が携わったからくり時計は、岩手県花巻市にもある。花巻駅のそばにある花巻



市定住交流センター「なはんプラザ」のからくり時計は、一九九四（平成六）年に設置され「銀河ポッポ」の愛称で親しまれている。花巻市出身である宮沢賢治の童話「銀河鉄道の夜」をモチーフに、賢治作曲の「星めぐりのうた」をアレンジしたメロディーに続いて、「ジョバンニ」、「カムパネルラ」の人形が手を振りながら登場する。時計の文字盤が開くと銀河鉄道の列車が「鳥を捕る男」、「双子の星」「インディアン」といった賢治ファンにはおなじみのキャラクターのオブジェのまわりを走りだす。

筆者は、二〇二二（令和四）年一月、半年間の改修工事が終わったばかりの「銀河ポッポ」を訪れた。その時は、まだ大森アトリエがわらべ館の時計の人形を手がけたとはわかっていなかったが、心躍る音楽、愛らしい人形たちの動きに、非日常の世界を体感した。地元の方に夜間の照明も見どころと聞き、午後五時から午後八時まで四回続けて時計の演出を見た。その間、親子や学校帰りの学生、旅行者たちが時計を見に来ていた。夫婦で訪れていた市内の四〇代の女性は、「工事の期間見られず寂しい思いをしたが、時計が復活してうれしい」と笑顔で話した。

わらべ館のからくり時計の制作者たちに誘われるように、岩手、東京、福井、奈良など全国各



花巻市定住交流センターなはんプラザ  
からくり時計「銀河ポッポ」



地のからくり時計を見て回った。時計の題材は、民謡や日本酒、童話など様々だったが、その地域の特色を反映したもののばかりだった。いずれのからくり時計も、人形、音楽はそれぞれのテーマに沿って細部まで緻密につくられていた。

小泉氏と大森氏のからくり時計の制作過程を知り、両氏の時計への情熱を感じた。それゆえに、時計を見る人の心が動くのだろう。

(注1) 一九九二(平成四)年に一階ロビーに設置された。一時間に一度、らくだ型の人形の背中から六体の人形が登場する仕掛けで、音楽は小泉まさみ氏が制作した。二〇二二(平成三四)年、人形が施設の屋上に移設され、現在はからくりの作動はない。

(注2) 二〇一一(平成二三)年、店舗名を「イオンノア店」に変更。文字盤の横に猫、振り子の部分に男女のピエロの人形が設置されている。故障のため時計とからくりは停止している。

(注3) <http://www.koperniks.com/karakuri/>

### 高橋智美(たかはし・ともみ)

わらべ館事業推進室企画員。二〇〇六(平成一八)年よりわらべ館に勤め、コンサート、ワークショップを担当する。鳥取観光マイスター。